

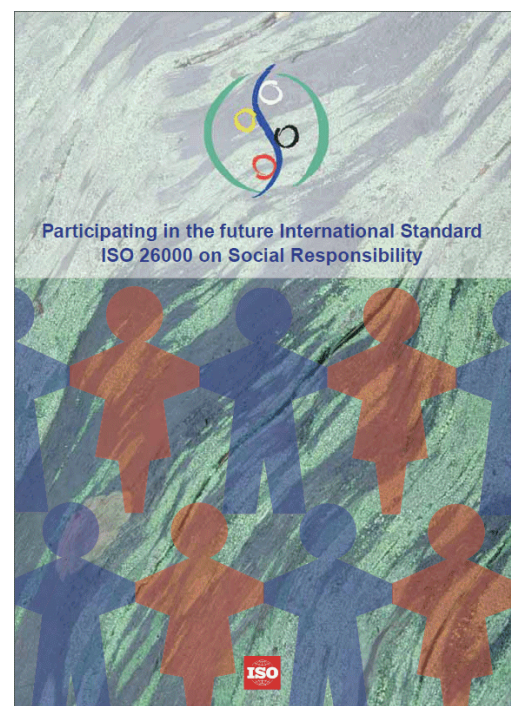
ISO 26000 発行へ向けての重要な出来事

2006 年 5 月 15 日から 19 日まで、ポルトガルのリスボンで開催された ISO の社会的責任に関する作業グループ (WG SR) の第 3 回総会に、55 개국と 26 の国際組織から、およそ 320 名の人々が出席した。この会議は、ポルトガル企業倫理協会 (APEE—Associação Portuguesa de Ética Empresarial) とポルトガル品質協会 (IPQ—the Instituto Português da Qualidade) との共催で、ポルトガルの各組織、とりわけ、ポルトガル郵便サービス (CTT) 及びグラウンドフォース・ポルトガルの後援によって開催された。WG SR の規格化作業の成功に向けたメッセージが、ポルトガルの大統領と首相からそれぞれ寄せられた。この会議は、ISO 26000 発行へ向け、規格化進展への重要な出来事であった。ISO の社会的責任に関する作業グループの次回会議は、2007 年 1 月 29 日から 2 月 2 日まで、オーストラリアのシドニーで、オーストラリア規格協会の主催で開催される。

規格の原案作成作業が進行中であるが、リスボンにおける会議の主な目的は第 1 次作業原案に関する全てのコメントの対応であった。この作業は、次回の WG SR 会議前に配布されコメントを求められる第 2 次作業原案を作成するために今後も続行される。リスボン会議では、規格内容に関する作業に加えて、WG への参加と WG の責任を高めるために、WG SR の運営枠組みがいつそう明確に規定された。

なお、この規格は、2009 年の第 1 四半期に発行される見込みである。

WG SR は引き続き、社会的責任への認識を世界中で高め、いかに多種多様な興味関心が、ISO 規格の意義、ISO 26000 規格の形成やその他の社会的責任活動に最も効果的に貢献するかを、広く伝えるためのコミュニケーション・ツールも開発している。コミュニケーション・ツールには専用ウェブサイト www.iso.org/sr も含まれており、このサイトでは、新しい小冊子『社会的責任に関する将来の国際規格 ISO 26000 への参加』を含めて、ISO の社会的責任イニシアティブに関する数多くの資料を見ることができる。なお、この小冊子については今後、アラビア語、フィンランド語、フランス語、日本語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語版も発行される予定である。



リスボン総会の主な成果

タスクグループ1(TG1)、資金援助とステークホルダー・エンゲージメント

WG SR は、リスボン会議に出席するために資金援助を受けたリスボン会議の参加者を代表して、TG1 及びスポンサー各位に心から感謝の意を表明したい。TG 1 は、これまでに次の団体から出席のための資金援助を受けた:

- ・フィンランド政府
- ・ノルウェー開発協力庁(Norad)
- ・スウェーデン国際開発協力庁(SIDA)
- ・SECO、スイス
- ・日本工業標準調査会(JISC)
- ・オーストリア開発庁(ADA)

WG 会議と連携して開催されたリスボン ISO/DEVCO(国際標準化機構・発展途上国対策委員会)ワークショップにおいて、資金援助を受けた出席者数は 38 名までに上った。TG1 は、アフリカの全ての ISO メンバーの出席により、ナイロビで ISO アフリカ地域ワークショップを開催し(2005 年 6 月と 7 月)、また、ウィーンでは 17 カ国の出席により、ISO 東ヨーロッパ・中央アジア、地域ワークショップを開催した(2006 年 4 月)。TG1 は、WG SR に、アフリカ、東ヨーロッパ、アラブ、カリブ海諸国の代表がいなかったため、モロッコのカサブランカと、バルバドスのブリッジタウンで 2006 年中のアラブ及びカリブ海地域ワークショップを開催するために財政支援を確保したことを明らかにした。さらには、COPANT との協力で、ウルグアイのモンテビデオでラテンアメリカ諸国のためのワークショップを開催した。また NGO に焦点を当て、IISD 及び AICC と協力したワークショップを、2006 年 12 月にマラウィで開催する。また、TG1 は、自らの資金援助イニシアティブに着手するため、ISO メンバーとステークホルダーの支援を続行する。

リスボン会議で、TG1 は、WG 内での試験的な短期財政支援メカニズムと、ISO 社会的責任信託基金の設立を提案した。TG1 にとって次の重要なステップは、短期資金援助メカニズムをどのように設置するかを決定すること、資金援助の実施のための基準を決定することが含まれている。TG1 は、WG 専門家と各国標準化機関(NSBs=National Standards Bodies)に国内ミラー委員会の運営に関して調査をすることになっている、また、異なる種類のステークホルダーが参加する際の重要問題とその解決方法を特定するためにフォローアップすることになる。

タスクグループ2(TG2)、コミュニケーション

TG2 は、透明性と公開性を確保するため、WG SR 情報の準備と提供に責任を負っている。WG SR の活動に対する理解を促すために、TG2 は次のことを実施してきた:

- ・各総会後のプレスリリースの発行準備
- ・SR ニュースレターの刊行(これまで 5 版発行)

- ・SR 小冊子の刊行
- ・標準プレゼンテーション用ツールキットの開発
- ・リスボン総会中のポスターセッションの主催
- ・リスボンオープンワークショップの主催
- ・SR 登録プレゼンター・プログラムの立ち上げ

TG2 は、各国標準化機関(NSBs)、WG 専門家、翻訳タスクフォースに対して、コミュニケーション用資料を、より多くの言語に翻訳するよう促してきた。TG2 は、全ての各国標準化機関(NSBs)に対して、SR に登録されたプレゼンターの登録を促す手紙を送付している。

TG2 は、メンバーからのフィードバックに基づき、プレゼンテーションをもっと柔軟なものにし、プレゼンターによって追加情報が加えられるよう、WG SR に登録されたプレゼンターによって使用される標準プレゼンテーションキットの改訂を行っている。加えて、TG2 は、よりダイナミックで魅力ある WG SR プロモーション資料の開発作業を実施している。各 WG SR 総会でのオープンワークショップ及びポスターセッションの主催も引き続き行っていく。

タスクグループ 3 (TG3)、運用手順

リスボン会議中に TG3 は、オブザーバー(特別アドバイザーと、専門家及びオブザーバーのバランスの取れた参加と登録)のための新しい作業手順と手引きを開発した。リスボンでの TG3 の議論は、ISO のメンバーが WG SR へ 6 人までオブザーバーを指名できる点で合意に達した。

現在のところ、メディアの参加に関する新たな作業手順の必要性について、TG3 内でコンセンサスは得られていない。TG3 は、ステークホルダー・グループに対して、メディアに対する戦略を開発・実施するため、TG2 に積極的に参加し、メディアの参加への手順の見直しを検討するよう促している。

TG3 は、リエゾン組織の透明性と、委員会原案(CD)及び国際規格原案(DIS)文書の進展に関して、議論を開始している。

タスクグループ 4 (TG4)、適用範囲、SR の背景、SR の原則

リスボン会議中に、TG4 は「適用範囲」に関連する主なトピックについて議論し、「適用範囲」についての原案を開発するため、アドホックの原案作成チームを設置した。このチームによって作成された適用範囲原案は、ISO 26000 第 2 次作業原案(WD2)に含めるために、編集委員会に提出されることが TG4 によって承認された。この原案は暫定的に合意されたものであるという理解のもと、更なる議論を重ねるための有力な基礎として用いられることになっている。

TG4 は、「社会的責任」の定義に関する原案を作成するため、アドホックの原案作成チームを設置した。このチームによって作成された定義原案は、ISO 26000 WD2 内に含めるために編集委員会に提出されることが TG4 によって承認された。この原案は暫定的に合意されたものであるという理解のもと、更なる議論を重ねるための有力な基礎として用いられることになっている。

「社会的責任」に関する定義案は、次のものである：

－社会及び環境に対する活動の影響に責任を果たす組織の行動。それらの行動は、社会の関心(利益)と持続的発展と整合のとれたものであり、倫理行動、順法性及び政府間文書に基礎を置いたものであり、かつ、組織の既存の活動と一体化したものである。(日本語仮訳)

定義への注釈：

－「社会的責任」の定義には含まれないが、規格の他の部分で記述される項目には次のものがある：フィランソロフィー、サプライチェーン／バリューチェーン、ステークホルダー・コミュニケーション／エンゲージメント、透明性、説明責任、コミットメント、経済、リーダーシップ、ガバナンス(日本語仮訳)

SR の背景の原案を作成するチームが設立された。編集委員会へ提出するこの SR の背景の原案は、第四章の SR の背景に関するセクションと SR の概念を説明するセクション(このセクションは、SR の定義の厳密化に役立ち、SR の定義への注釈の中で明らかにされる諸問題に対処するものとなる)を構成することになる。

(SR の)原則の原案を作成するチームが設立された。このチームは、第五章において、SR の諸原則の性格と選択基準について説明し、3つのカテゴリー(一般の原則、社会的責任の本質を示す原則、組織の行動原則)に分類する類型を提示し、付随する文書の開発に関する今後の議論を導くことを目的とした、最初の一般原則のセットを特定する。

タスクグループ5(TG5)、SR の主題／課題に関するガイダンス

TG5 はリスボンの会議で成功を収めた。TG5 は、「項目」のリストを承認し、適確でバランスの取れた原案作成チームを設置し、原案作成者にとって使いやすい枠組みを作り、編集委員会に提出する期限に間に合わせるため、重要な道筋について明確なプロセスを決定した。TG5 によって開発された暫定的なリストと項目の名称は次のものである：

- ・環境
- ・人権
- ・労働慣行
- ・組織統治
- ・公正な事業慣行
- ・コミュニティ参画／社会開発
- ・消費者課題

タスクグループ6(TG6)、SR 履行のガイダンス

リスボン会議で、TG6 は、WD1 に関して寄せられたコメントから 20 の重要トピックを明らかにし、これら全てのトピックへのインプットを得ている。現在 WD2 のための枠組みを提供している。

TG6 は、現在、次の 6 段階の行動プランを実施している：

1. アドホックグループ「ストラクチャー」(第七章の構造について議長に提供する)と、アドホックグループ「テキスト」(第七章の内容の原案作成の際に議長を支援する)を設置する
2. TG6 のリーダーシップで、TG6 の専門家に提出して彼らのコメントを求めるための原案文書を作成する
3. TG6 のリーダーシップで、TG6 の専門家から寄せられるコメントを組み込み、その次の原案文書を編集委員会に提出する
4. TG6 のリーダーシップで、コメントの第2ラウンドのための原案を配布する
5. TG6 のリーダーシップで、編集委員会に次の原案文書(WD2)を提出する
6. TG6 のリーダーシップで、編集委員会からのインプットを基にして WD2 を仕上げる

TG4、TG5、TG6 の合同会議

リスボン会議中に、TG4・TG5・TG6 の合同タスクフォースが設置された。TG4・TG5・TG6 は、この「合同タスクフォース」は定義が必要な用語のリストを作成し、これらの用語を関連タスクフォースに割り当てることで合意した。SR の諸原則とステークホルダーに関する主要トピックが合同タスクフォースに再度割り当てられ、ステークホルダーが自分たちの代表を指名したらずぐに、その作業を開始することで合意がなされた。

翻訳タスクフォース

フランス語圏タスクフォース(FTF)とスペイン語翻訳タスクフォース(STTF)に加えて、リスボン会議中に、次の2つの新しい翻訳タスクフォースが設置された：

- ・アラビア語翻訳タスクフォース(ATTF)
- ・ロシア語翻訳タスクフォース(RTTF)

今後の予定

リスボン総会から次回シドニー総会まで詳細なプロジェクト・プランは、次の通りである：

- ・2006 年 5 月 22 日－8 月 31 日(3カ月)
－WD2 のための草案文書の開発(TG4-6)
- ・8 月 31 日－10 月 11 日(5.5 週間)
－WD2 の編纂と編集(編集委員会)
- ・10 月 12 日－12 月 4 日(7.5 週間)
－WD2 に関するコメント(WG の専門家)

- ・12月4日－12月18日(2週間)
- －寄せられたコメントの編集(WG事務局)
- ・12月18日－2007年1月29日(6週間)
- －受け取ったコメントのWG専門家への配布
- －シドニー総会準備作業(TG4-6のリーダーシップ+プロジェクト編集者)
- ・2007年1月29日－2月2日
- －オーストラリアのシドニーでのWG SR会議

予定されているイベント

- ・カリブ海 社会的責任意識改革ワークショップの開催
2006年10月23日から24日まで、バルバドスのセントマイケル
- ・アラブ諸国のための地域ワークショップ
2006年10月31日から11月1日まで、モロッコのカサブランカにて計画
- ・ISO 社会的責任作業グループ会合
2007年1月29日から2月2日まで、オーストラリアのシドニーにてオーストラリア規格協会の主催で開催

リスボン会議以降の新メンバー

ISO メンバー機関から次の新たなWG SR 専門家を歓迎する:

- ・キューバ(NC)
- ・エジプト(EOS)

新たに承認されたDリエゾン組織は以下のとおりである:

- ・BIAC(OECDの経済産業諮問委員会)
- ・NORMAPME(European Office of Crafts, Trades and Small and Medium-sized Enterprises for Standardisation)

・第3回WG SR会議で採択された決議文、その他の情報・プレゼンテーションには、
<http://www.iso.org/wagsr> で入手できる



社会的責任に関するISO/TMB/WG

- ◆ <http://www.iso.org/sr>でさらに詳しい情報が得られる。
- ◆ 参加については、自国の標準化機関に問い合わせること。標準化機関については「メンバー機関」で得ることができる。<http://www.iso.org/iso/en/aboutiso/isomembers/index.html>
<http://www.iso.org/sr>の「組織」の項で、WGに参加している組織の情報も得られる
- ◆ ISO/SR ニュースレターの購読(無料)については、Eメールで、ISO/TMB/WG/SR TG2 コミュニケーションの副事務局の Ms. Nicki Islic SRnewsletter@csa.ca に問い合わせること。